

## 私（かどた）の体験

### カバールーフ

弊社のカバールーフは間接固定工法（既設の屋根材はそのままで上から被せる）で工事中でも操業が可能で、且つ工期短縮が実現し、又屋根の2重構造により在来工法より**断熱効果が大**、庫内の床面+1.5mの位置で室内最大温度差が3.1度下がります。

弊社がこの屋根改修工事を手がけて最初の年、H20年8月にM社（自動車製造

業）に行き且つ、屋根工事の模型を作り約20日間、事務所に展示させてもら

って、見て、手に触れて、出来るだけ多くの方の意見を聞くようにした。その

後、紆余曲線ありましたが、お客様のメリット、1 室内温度（作業エリア内）が

1℃ないし3℃従来工法（葺き替え、直接固定）より下がること、2 工期短縮

を訴えた。その甲斐あってか、テストケースとして瓦棒屋根の改修工事

(その年の11月)927 m<sup>2</sup>の初受注を貰い、ちょうどその下が事務所だったので、

暑さ対策も兼ねての工事でした。我々のこの工法をM社さんに初めてご採用

して頂いた瞬間でした。其の時の嬉しさ今でもはっきりと憶えております。

それから今日まで6年間

M社のご担当者にご指導を頂き、お陰様で、この工法でいままで、46.932 m<sup>2</sup>の

屋根改修工事をさせてもらっております。そこで、M社様のネックである夏場

の暑さ対策の調査として、カバールーフの断熱材敷きの 有る、無しの

施工前、施工後の温度比較を次ページでしてみました。



屋根断熱材敷き、 $t = 50\text{mm}$ 、 $24\text{K g}$ 品 施工中



ご担当者 岡様と弊社 榊原 徹也 現場にて

《この写真は文中とは関係ありません。》